

子どもと本をつなぐ【概要版】

～読書への関心を高める学校図書館活用ガイド～

1 学校図書館の役割



各学校においては、以下に示す3つの役割を機能させるための整備充実が必要です。

読書センター

読書指導や読書活動の拠点

学習センター

学び方を学ぶ場

情報センター

情報活用能力の育成を指導・支援する場

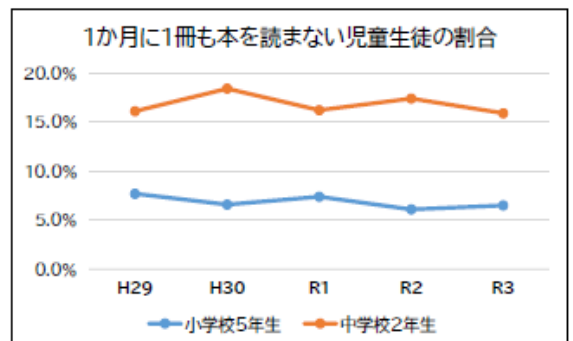


〈学校図書館チェックリスト〉等を活用し、学校図書館の現状を確認するとともに、改善点が見つかった場合は、全教職員が協力し計画的に改善を進めましょう。
※各学校配布の「子どもと本をつなぐ」では、県内小学校の図書室を紹介しています。

2 読書指導の充実



本県における近年の不読率は、小学校5年生で6～7%程度、中学校3年生で16～18%程度となっています。スマートフォンの普及やそれを活用したSNS等のコミュニケーションツールの多様化等、子どもたちを取り巻く環境の変化も原因の1つと考えられます。



平成13年に成立した「子どもの読書活動推進に関する法律」にもあるように、「子どもの読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの」です。このような環境において子どもたちが本と出会うためには、「手立て」が必要です。

子どもたちと本をつなぐ手立てとしては、次のような「読書活動」を行うことも考えられます。発達段階や児童生徒の実態に応じて、計画的・継続的に「読書活動」に取り組むことで、子どもたちの本に対する興味・関心を高めることが期待できます。

各学校においては、取り組んでほしい読書活動を紹介します。

※読書活動の詳細については、各学校配布の「子どもと本をつなぐ」でご確認ください。

【小中学校で取り組んでほしい読書活動（例）】

- (1) 行事的な読書活動
読書月間や読書週間、読書集会、群読発表会、読書郵便など
- (2) 想像の世界を広げる活動
読み聞かせ、ブックトーク、パネルシアター、ペープサートなど
- (3) 読書したことを表現する活動
本の帯、本のポップ、読書新聞、読書感想文・読書感想画など
- (4) 表現し交流し合う活動
ビブリオバトル、読書会、読書へのアニメーション、おすすめの本の紹介など

3 学習活動と学校図書館



「新大分スタンダード」にある「4 生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開」は、特に、学校図書館活用と大きく関わります。

- ① 課題の設定…イメージを広げて課題を設定する →ブックトーク等
- ② 情報の収集…考えを深めるための情報収集 →情報カード等
※学校図書館（辞書、事典、本、雑誌、新聞等を活用）
- ③ 整理・分析…思考のための情報の整理・分析 →情報カード等
※足りない情報がある場合は、学校図書館等で再度情報を集める
- ④ まとめ・表現…思いを共有し、考えを広げたり深めたりする →読書活動

4 一人一台端末と学校図書館

一人一台端末を活用するようになって、学校図書館が大切な学習の場であることに変わりありません。これまでは「本」という紙媒体が中心だった学校図書館に「タブレット」や「電子書籍」などの電子媒体が加わったことで、発達段階や学習内容により対応しやすくなりました。引き続き、学校図書館を積極的に活用し、「主体的・対話的に深い学び」の実現を進めていきましょう。

図書で調べることのメリット・デメリット

- ◎百科事典などの図書資料は、小・中学生に分かりやすい言葉で、必要な情報が端的に整理されています。
- ▲最新の時事テーマについて調べる場合、図鑑などの図書資料では、情報が古く、必要な情報を得られない場合があります。

端末を利用することのメリット・デメリット

- ◎図書資料では太刀打ちできないほどの大量の情報を得ることができます。
- ▲情報活用のスキル（検索や精査等）がないと、誤った情報を活用してしまったり、必要な情報にたどり着かなかったりすることが考えられます。